

令和7年度（2025年度）市町村職員国内先進事例研修 研修先の概要

研修① 兵庫県佐用町

(1) 町の概要

人 口：14,530人

世帯数：6,736世帯 ※令和7年4月30日現在

(2) 研修テーマ 住民主体型のまちづくり～地域づくり協議会の取組

佐用町では、地域の発展を目指す「協働のまちづくり」を推進するため、平成18年に旧小学校区を基にした13の地区に地域づくり協議会が設立されました。各協議会は地域に適した地域づくり計画を策定し、地域の特性に応じた運営を行っており、様々なイベントの実施や地域課題への対応など、活発な活動が展開されています。具体的な取り組みとしては、江戸時代からの宿場町の景観を活かした活動や、空き家対策、マルシェの開催、地域の賑わいの場や憩いの場の創出などが挙げられる。特に注目すべきは、佐用町北西部の11の自治会（当時約1,200人）で構成される江川地域づくり協議会の取り組みです。民間路線バスの撤退により公共交通が完全に失われた中、町や地域交通の研究を行う大学の支援を受け、協議会は様々な課題に取り組み、平成24年には地域運営によるコミュニティバス「江川ふれあい号」の本格運行を実現しました。本研修では、特徴的な活動事例の紹介や行政のサポート・関わり方などについての座学を行う。

研修② 兵庫県淡路市：のじまスコーラ

(1) 町の概要

人 口：40,950人

世帯数：20,372世帯 ※令和7年6月1日現在

(2) 研修テーマ 廃校を活用した、あらたな観光・6次産業化のモデル施設とする取組

「のじまスコーラ」は、閉校となった淡路市の「旧野島小学校」をリノベーションし、新たな観光・農業の六次産業化等を通じた地域活性化を目指すことを目的とした、株式会社パソナふるさとインキュベーションが運営する複合観光施設です。廃校となった小学校の再利用を検討していた淡路市と、淡路島で第1次産業活性化のための事業を行っており、そこから食品加工、流通販売を含めた6次産業への展開を目指していたパソナグループ。この二者のマッチングにより、淡路市からパソナグループに施設が無償譲渡され、建物をリノベーションし、2012年に開設されました。

施設内には、農産物加工所や地域住民が集うカフェ、レストラン、ベーカリー、マルシェ、動物園などが設けられています。また、地元町内会等と共同で開催する「野島夏祭り」のほか、農業、芸術、音楽などをテーマに様々なイベントを開催し、地域住民の交流の場を設けるとともに、淡路島の魅力を発信することで、年間約18万人の観光客が訪れており、淡路島への移住者の雇用機会を提供し、定住促進の受け皿ともなっている。本研修では、廃校活用による地域の観光・6次産業化の拠点となった「のじまスコーラ」の取組とパソナグループが淡路市で展開している地方創生の取り組みについての座学と施設の見学を行う。

研修③ 兵庫県洲本市：域学連携から始まる持続可能な地域づくり

(1) 町の概要

人 口：40,489人

世帯数：20,448世帯 ※令和7年6月末現在

(2) 研修テーマ 域学連携から始まる持続可能な地域づくり

淡路島では、エネルギーの持続（再生可能エネルギー活用による電力自給率100%達成）、農と食の持続（農漁業振興による食料自給率100%以上維持）、暮らしの持続（交流人口や定住人口の増加による接続人口維持）の三本柱の目標を掲げる「あわじ環境未来島構想」を策定しています。大学が無く、知の集積や高校卒業後の若者の減少が課題となっている洲本市では、構想実現のために、都市部の大学と協力関係を構築し、学生や教員が泊まり込みで市内の地域に入り、地域住民や団体と一緒に話合い、考え、汗を流しながら、地域の課題やニーズを把握し、ヨソモノや研究者だからこそ気づく地域の魅力や未利用資源を掘り起こし、継続性や賑わい創出に配慮した事業やイベントを構築・実践している。売電利益を地域活性化のために活用するため池ソーラー発電所の設置、農業用ため池の保全活動や放置竹林問題と竹の利活用・維持管理を考える取組を観光化した「掻い掘りツアー」、「竹林伐採体験ツアー」の開催、学生の滞在拠点となる市有古民家「ついではん」の改修、ソーシャルビジネスの起業を支援する拠点として、また普段はコワーキングスペースとして開放している「島の編集室 SENKA」の開設など、多様な取り組みを展開している。

このような域学連携事業は、その活動や成果が各方面で高く評価されているとともに、事業に参画した多くの学生が卒業後も洲本市との関わりを持ち続けることで交流人口が生まれ、その中から移住者も出てきている。本研修では、特徴的な活動事例や、学生との関係の構築、事業継続の仕組み・体制についての座学を行う。